

NPO 法人理科カリキュラムを考える会 2025 年度冬季シンポジウム・第 27 回全国大会

子どもの「つまずき」から始める次世代の理科授業

— 英国と日本の概念研究を手がかりに

2026 年 1 月 11 日（日）12 日（月祝）【ハイブリッド開催】

会場でもオンラインからでも参加できます

申し込まれた方はシンポジウム終了後も事後視聴できます

主 催：NPO 法人理科カリキュラムを考える会 <https://rikakari.jp/>

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 4 階 416 室

東京都渋谷区代々木神園町 3-1（オンラインからも参加できます）

対 象：小・中・高・大の理科教育に携わる方、教育ジャーナリスト、一般

参加費：一般 3,000 円 本会会員 2,000 円 学生 1,000 円 定員：対面 80 名+オンライン 120 名

申込み：右の URL または QR コードから申し込んでください <https://rikakari202601.peatix.com>

問合せ：理科カリキュラムを考える会事務局 小川慎二郎 [rikakari.jimu\(at\)gmail.com](mailto:rikakari.jimu(at)gmail.com)



——— 子どもの「つまずき」が、授業を変えるヒントに ———

子どもがよくする「あの間違い」には、実は意味があります。英国ヨーク大は、子どもの誤答の背後にある「素朴な概念」を丁寧に分析し、授業づくりに活かせる素朴概念サイト「BEST」を公開。今回のシンポは、そのサイトを日本語訳で使えるようにした紹介と、現場の先生方と一緒に「日本版・素朴概念サイト」作りへの挑戦も提案します。

講演では、認知心理学の今井むつみ氏が、子どもの誤答を「意味のある間違い」と捉え、そこからの学び直しが重要だと語ります。

文科省の小林一人氏は、具体化が進む次期学習指導要領の方向と、「中核的な概念」理解に概念研究の活用を提案されます。

AI 時代とその先を見据え、子どもの「つまずき」を授業の力に変えるヒントを、一緒に探してみませんか？

——— 1 月 11 日（日）12 時開場 12 時 30 分～17 時 ———

「子どもの“つまずき”から始める次世代の理科授業」 滝川 洋二（本会理事長）

「自らの人生を舵取りする力を育てる理科教育 次期学習指導要領で何をを目指すか」 小林一人氏（文部科学省）

「すべての誤答には子どもなりの理屈がある」 今井 むつみ氏（慶應義塾大学 認知心理学）

パネルディスカッション「次の時代を切り拓く理科教育」 小林一人・今井むつみ・滝川洋二

——— 1 月 12 日（月祝）8 時半開場 9 時～16 時 00 分 ———

「学習指導要領との対比で使いやすくなった BEST 日本語翻訳版」 古月 徳磨（田園調布雙葉中学校高等学校）

「授業でだれも取り残さないための英 BEST 活用法」 大野 栄三（北海道大学名誉教授）

「月の位置と変化など BEST の診断問題を使った小 4 の授業」 鍛冶 裕之（函館市立北美原小学校）

「私の BEST の使い方 生徒が授業をどう評価したか」 栗木 久（平安女学院高等学校ミルトスコース）

「BEST を活用した食物連鎖モデルの理解を深める授業提案」 伊藤 宗彦（東京福祉大学）

「日本の授業研究を元にした日本版素朴概念サイトを作ろう」 理科カリキュラムを考える会

「化学分野における大学生の誤概念—水溶液の電気伝導性と気体の圧力に関する調査」 高原 周一（岡山理科大学）

「小中高を見通した教科書の提案（仮）」 小中高理科カリキュラム研究会

総合討論「日本版素朴概念サイトをどう創るか」

ポスター発表

「化学分野における大学生の誤概念」高原周一（岡山理科大学）／「子どもの素朴概念を変える実験例」滝川 洋二／他

